

【5-A】祖母懷連区 社会条件

【連区の概要】

祖母懷連区は瀬戸市中央部の東寄りに位置する。連区北部の市街地にはやきもの産業関連施設が集積している一方、連区南部には自然豊かな樹林地があり、連区北西部には生活サービス施設である商店街がある。主要道路としては、国道155号、国道248号、県道33号などが存在する。鉄道は連区内には存在しないが、近隣に名鉄瀬戸線の尾張瀬戸駅が存在する。

祖母懷連区



【人口および世帯数】

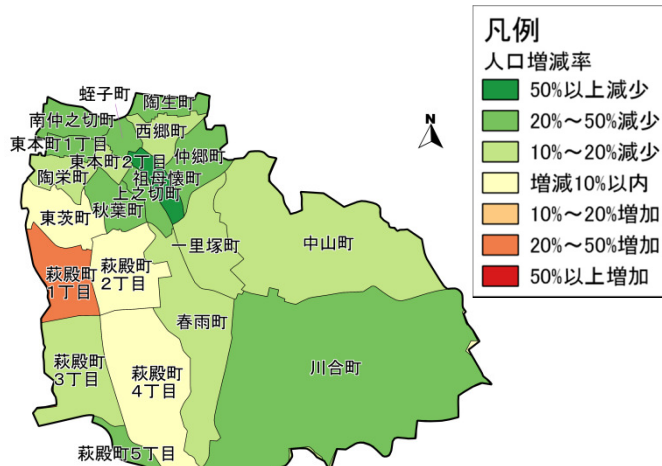
平成12年から平成22年までの10年間で、祖母懷連区全体の人口は3,544人から2,964人と16.4%減少し、萩殿町1丁目を除き、ほぼ全域で減少傾向である。また世帯数は1,316世帯から1,218世帯と7.4%減少している。

祖母懷連区全体の65歳以上人口比率が34.6%と、瀬戸市全体の23.3%と比べて11.3%高い。人口が増加している萩殿町1丁目を除き、連区全域で高齢化が進行している。

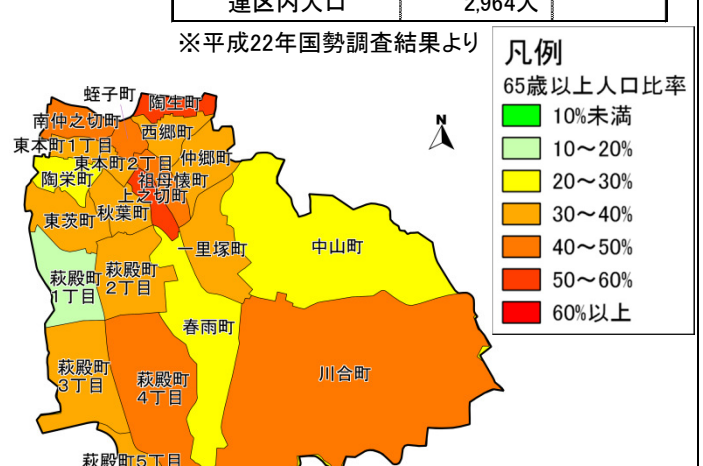
階層別人口構成

年代	人口	構成比
0～14歳	244人	8.3%
15～64歳	1,683人	57.1%
65歳以上	1,020人	34.6%
区分不明	17人	-
連区内人口	2,964人	

※平成22年国勢調査結果より



人口増減率図



65歳以上人口比率図

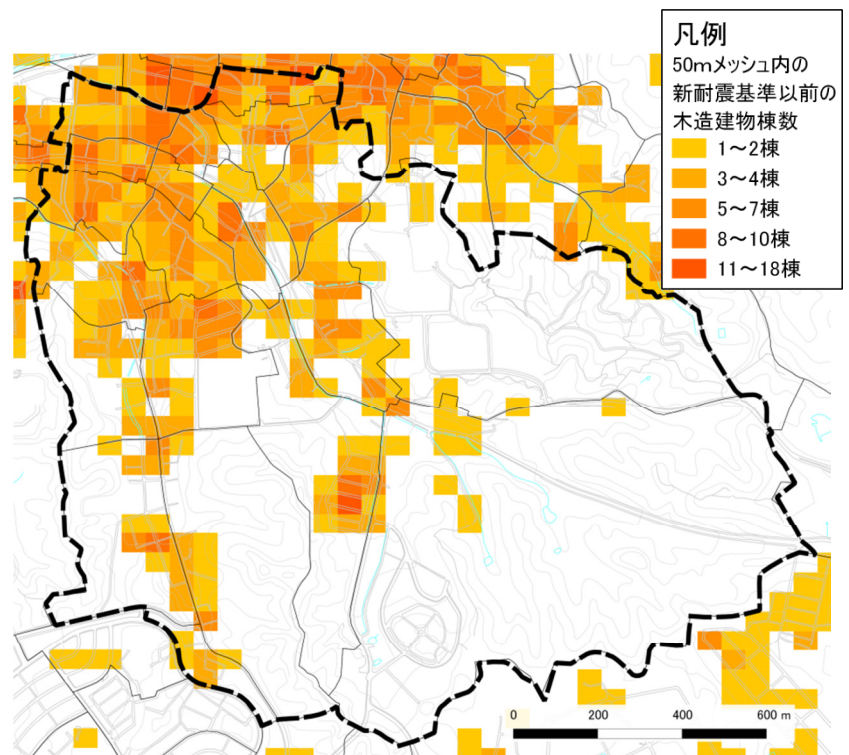
【建物】

祖母懷連区の木造建物および非木造建物の割合は、木造建物74.4%、非木造建物25.6%である。新耐震基準以前（昭和55年以前）の木造建物は全建物の53.8%であり、瀬戸市全体の34.3%に比べて高く、連区北西部の市街地に集中している。

木造・非木造構成

	建築年	棟数	構成比
木造	S35年以前	543棟	33.8%
	S36～55年	322棟	20.0%
	S56年以降	330棟	20.5%
	計	1,195棟	74.4%
非木造	S45年以前	166棟	10.3%
	S46～55年	80棟	5.0%
	S56年以降	166棟	10.3%
	計	412棟	25.6%
連区内棟数		1,607棟	100.0%

※平成23年度都市計画基礎調査
建物利用現況図をもとに集計



新耐震基準以前の木造建物分布図

【5-B】祖母懷連区 水害および土砂災害

- 過去に水害が発生した箇所がある。また、連区北部、中央部、南西部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。
- 居住地域のほぼ全域で、近隣に風水害時の避難所が存在する。

【水害および土砂災害箇所】

祖母懷連区では、浸水想定区域は設定されていない。過去には、大正14年に一里塚川、茨川が氾濫する大規模な水害が発生している。

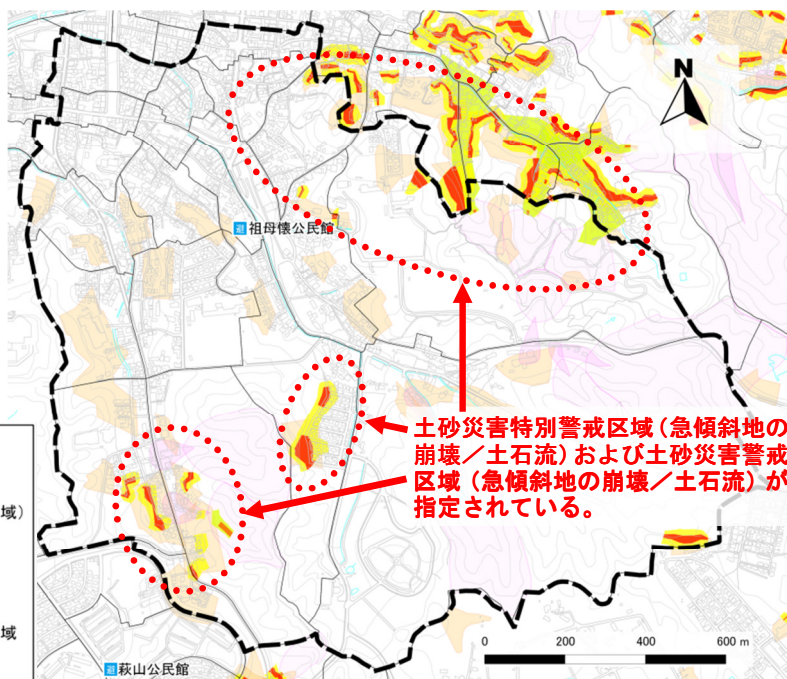
また、連区北部（陶生町、一里塚町、中山町）、中央部（春雨町）、南西部（萩殿町3丁目、萩殿町4丁目）では、土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域に指定されている箇所があり、対策が必要である。

その他、主に丘陵地の傾斜が急な箇所などで急傾斜地崩壊危険箇所または土石流危険渓流に指定されている箇所が散在している。

土砂災害警戒区域内にある建物棟数

急傾斜地の崩壊	61棟
特別警戒区域	17棟
警戒区域	44棟
土石流	0棟
特別警戒区域	0棟
警戒区域	0棟

凡例
風水害避難所
土砂災害情報
急傾斜地の崩壊（特別警戒区域）
土石流（特別警戒区域）
急傾斜地の崩壊（警戒区域）
土石流（警戒区域）
土石流危険渓流
土石流危険渓流による危険区域
急傾斜地崩壊危険箇所
地すべり危険箇所
既往水害（東海豪雨）



水害・土砂災害危険度図

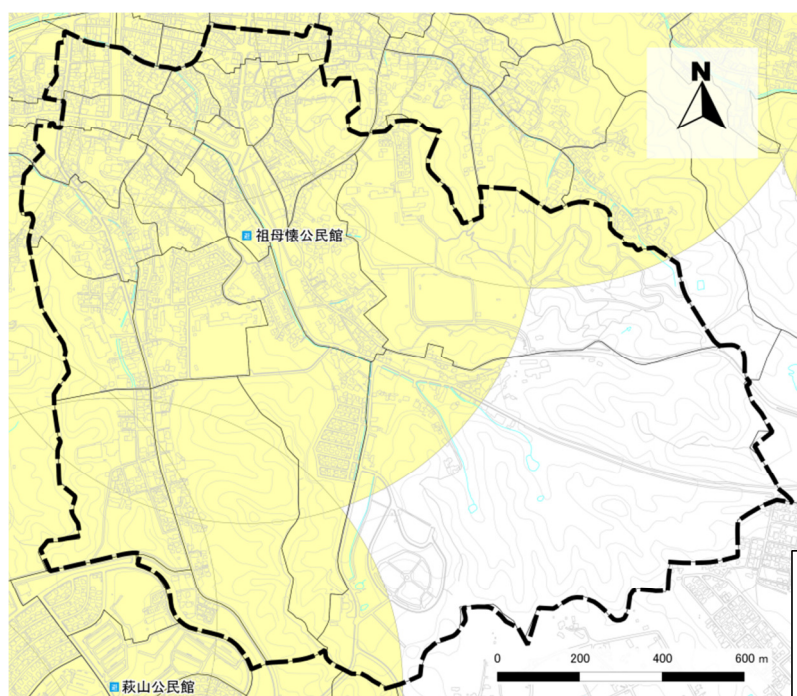
【風水害時の避難所および緊急避難場所】

祖母懷連区では祖母懷公民館が風水害時の避難所・緊急避難場所として指定されている。近隣連区の避難所も含めると、居住地域のほぼ全域において700m以内に風水害時の避難所が存在する。

風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所・避難所	収容定員（目安）		
	長期	初期	直後
祖母懷公民館	55人	115人	185人
古瀬戸公民館【古瀬戸連区】	35人	70人	115人
萩山公民館【菱野団地】	35人	70人	115人

※地域防災計画より



風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

凡例
避難所・緊急避難場所（風水害）
緊急避難場所 兼 避難所
避難所等からの対象範囲（同心円）
避難所から700mの範囲

【5-C】祖母懷連区 地震災害

- 連区北西部の市街地を中心に、耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い。
- 連区の全域にて、近隣に地震時の避難所が存在する。

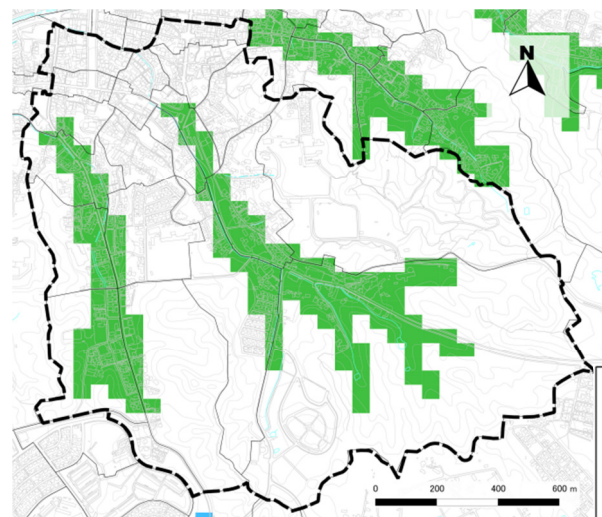
【建物被害および液状化】

(1) 建物被害について

祖母懷連区はほぼ全域にて、耐震性の低い建物が倒壊する危険性がある。このうち、連区北西部の商業地域では、耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い傾向があり、幅員が狭小な道路が多いため、道路閉塞や火災延焼の危険度が高い。

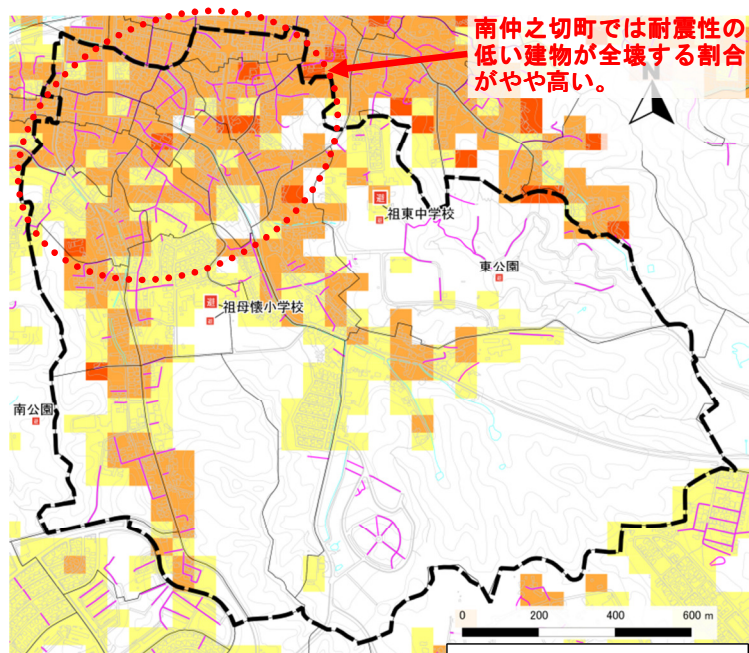
(2) 液状化について

液状化の可能性がある地域は、一里塚川と東茨川で形成された沖積低地（谷底平野）に分布している。



液状化危険度図

凡例
液状化の可能性
非常に高い
高い
低い
極めて低い
ほぼない



建物(木造および非木造)倒壊危険度図

凡例
耐震性の低い建物が倒壊する割合
高い
やや高い
低い
ほぼない
道路情報
一般道路 4m未満

南仲之切町では耐震性の低い建物が全壊する割合がやや高い。

【地震時の避難所および緊急避難場所】

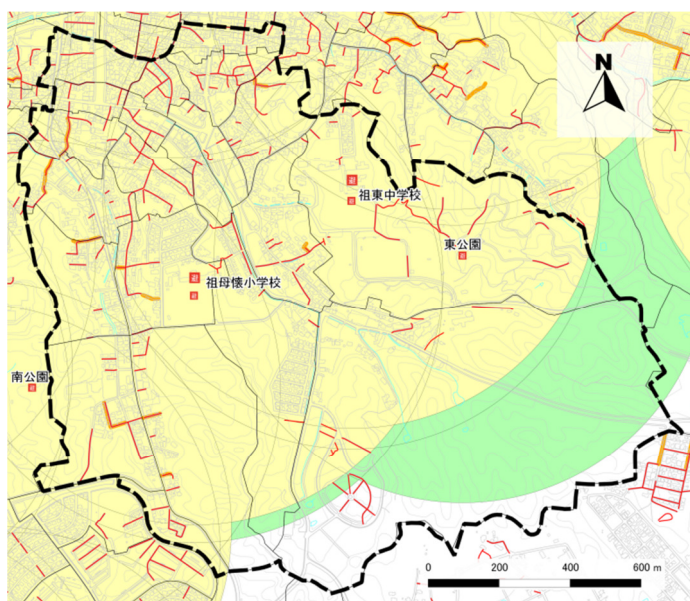
祖母懷連区では、地震時の緊急避難場所として東公園、祖母懷小学校、祖東中学校の3ヶ所、避難所として祖母懷小学校、祖東中学校の2ヶ所が指定されている。ほぼ全域において、700m以内に地震時の避難所もしくは緊急避難場所が存在する。

避難所および緊急避難場所へは狭い道が多く、災害後の状況によっては、円滑な避難が阻害される可能性がある。

地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
東公園(野球場等)	祖母懷小学校	80人	155人	255人
祖母懷小学校(運動場)	祖東中学校	210人	420人	685人
祖東中学校(運動場)				

※地域防災計画より



広域・地震避難場所の対象範囲図

凡例
避難所・緊急避難場所(地震)
避難所
緊急避難場所
避難所等からの対象範囲(同心円)
避難所から700mの範囲
緊急避難場所から700mの範囲
道路情報
道路傾斜 10度以上
道路幅員 4m未満